

令和2年度 人権に関する市民意識調査 結果報告

5年ぶりに
実施

～関心のある人権問題は「インターネット」「女性」「障害児・障害者」～

横浜市では、「一人ひとりの市民が互いに人権を尊重しあい、ともに生きる社会」の実現をめざして、さまざまな取組を進めています。本調査は、人権に対する市民の意識を把握し、「人権施策基本指針」の改訂や、各種施策の企画・実施及び人権啓発などの取組を進めていく際の参考とするために実施しました。今回、新たに「新型コロナウイルス感染症」などについても尋ねました。

このたび、調査結果がまとまりましたので、お知らせします。

■主な調査結果

- 関心のある人権問題（問1）
 - ・前回調査（※）と同様「インターネット（59.0%）」が第1位。多い順で「女性（51.2%）」、「障害児・障害者（49.6%）」と続く。
 - ・前回調査に比べて、「感染症・疾病（44.2%）」が大幅にUP（約25ポイント）
そのほか、「性的少数者（27.6%）」「外国人（27.2%）」も約1.7倍に！
- 今の日本は「基本的人権」が尊重されている社会か（問2）
「どちらとも言えない」と回答した人が約5割（「そう思う（29.0%）」、「そう思わない（17.5%）」）
- 差別された経験（問6）
 - ・約5割が、何らかの差別をされた経験があり、多い順で「学歴・出身校（15.2%）」、「容姿（13.0%）」「性別（9.4%）」と続く
 - ・「性別」による差別経験は男女差が大きい（男性2.3%、女性15.3%）
- 設問間クロス集計 差別についての認識（問4-1）× 差別についての行為（問4-2）
差別についての認識と行為との関係を見ると、差別は「あってはならない」と回答した人では差別を「したことがない」と回答する割合が全体（14.6%）より6ポイント高いなど、認識と行為には関連がみられる
- 新型コロナウイルス感染症について（問23）
患者やその家族、医療従事者等に対する人権侵害について、約9割が「あってはならない」6割以上の人が入権を守るために「市民一人ひとりが正しい知識を身につけること」が必要と回答
- 性的少数者の理解者になることについて（問26）
家族から性的少数者であることを告白された場合、約6割が理解者になることが「できる」年齢が若い層ほど「できる」が多い一方、高い層では「わからない」が多い傾向

クロス集計

新規設問

■調査概要

調査対象：市内在住 18 歳以上の男女 5,000 人（うち外国籍市民 100 人）※住民基本台帳による無作為抽出

調査方法：郵送による配布、郵送・インターネットによる回収及び回答

調査期間：令和 2 年 7 月 31 日（金）～8 月 21 日（金）

回収結果：有効回収票数 2,301 票（有効回収率 46.0%） ※前回調査時の有効回収率は 40.4%

★調査報告書は下記ホームページでご覧いただけます。

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kyodo-manabi/jinken/sesakuiishin/sesakuiishin.html>

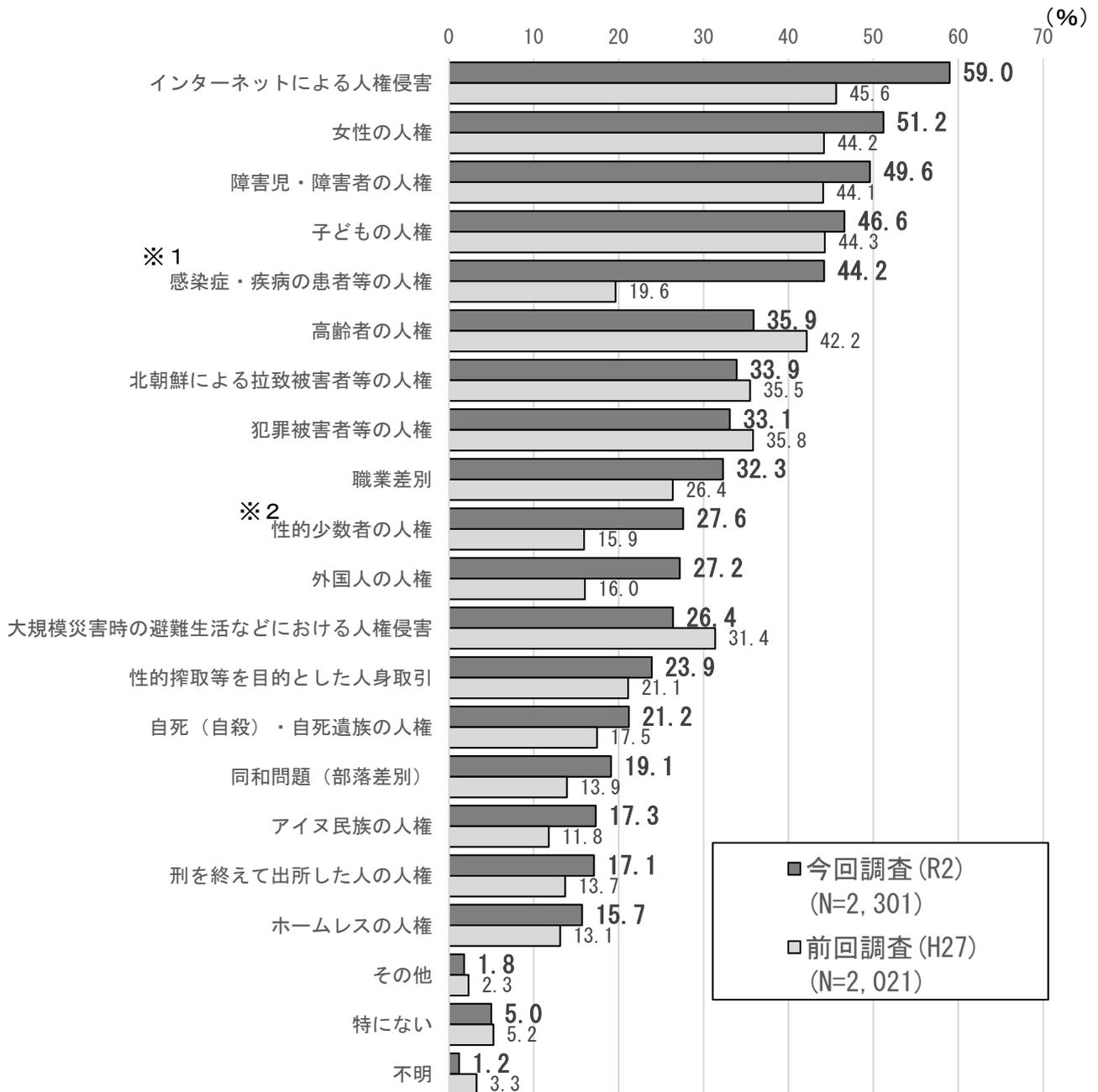
お問合せ先
市民局人権課長 吉川 正則 Tel 045-671-3984

1 関心のある人権問題【問1】

日本の社会には、基本的人権にかかわるさまざまな問題がある中で、どの人権問題に関心があるかを尋ねたところ、「インターネットによる人権侵害」が59.0%と最も多く、次いで「女性」が51.2%、「障害児・障害者」が49.6%と続いている。

前回調査と比較すると、「感染症・疾病の患者等」がおよそ25ポイント、「インターネットによる人権侵害」がおよそ13ポイント、「性的少数者」がおよそ12ポイント、「外国人」がおよそ11ポイント増加している。

図Ⅱ—1—1 関心のある人権問題[複数回答]



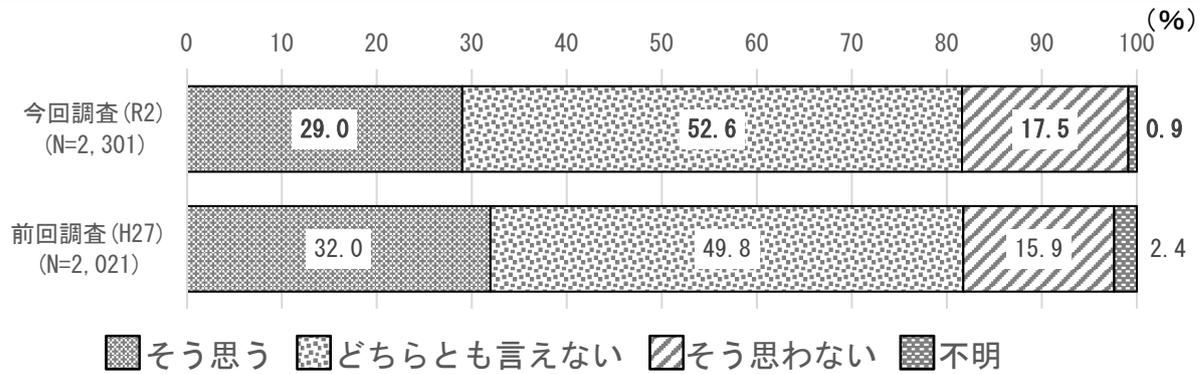
※1 前回調査では「HIV感染者やハンセン病患者・回復者などの人権問題」

※2 前回調査では「いわゆるLGBTなど性的少数者の人権問題」

2 今の日本は「基本的人権」が尊重されている社会か【問2】

今の日本は「基本的人権」が尊重されている社会だと思うかを尋ねたところ、「どちらとも言えない」が52.6%と最も多く、次いで「そう思う」が29.0%、「そう思わない」が17.5%と続いている。前回調査と大きな傾向の差は見られない。

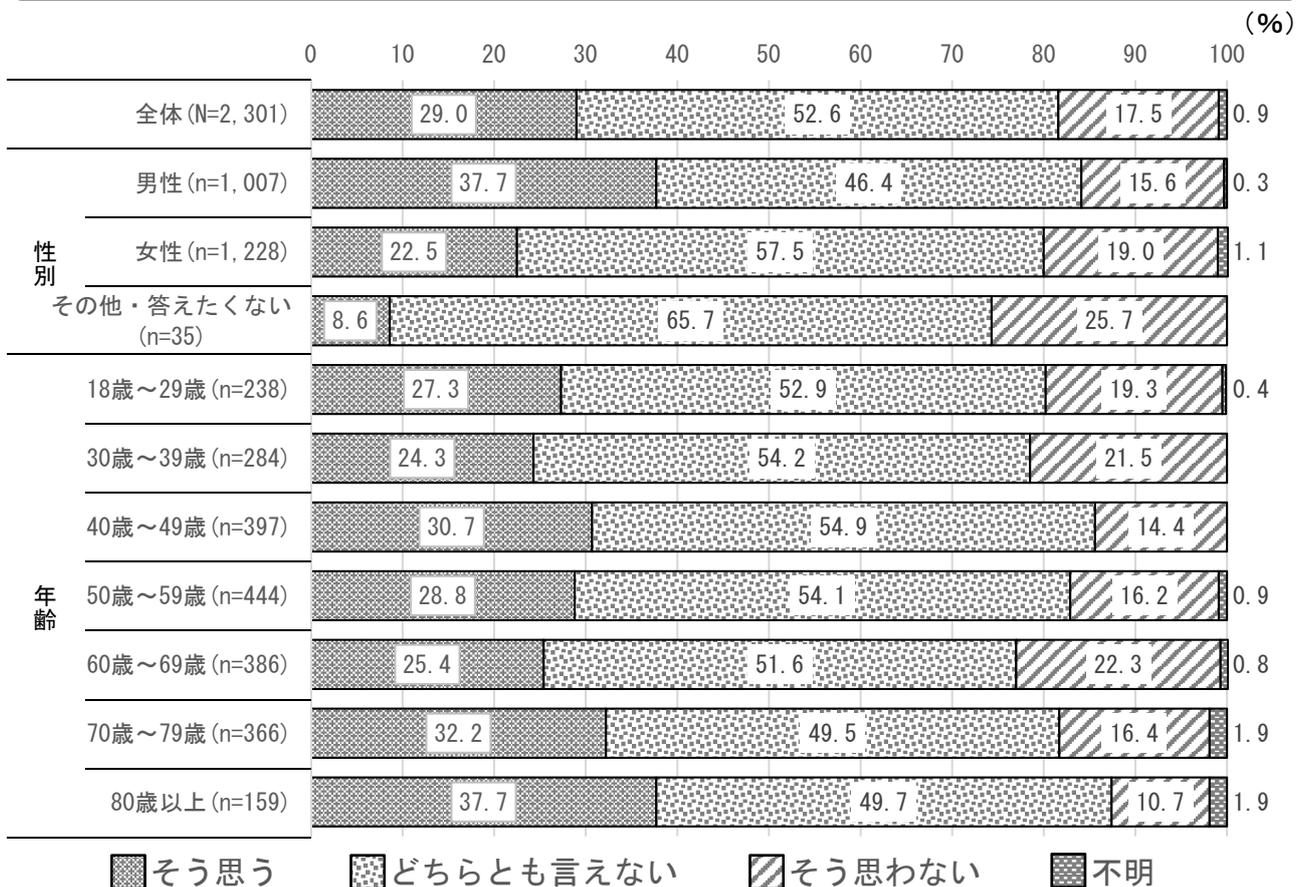
図Ⅱ—2—1 今の日本は「基本的人権」が尊重されている社会か



性別で見ると、「そう思う」については女性より男性がおよそ15ポイント高い一方で、「どちらとも言えない」については男性より女性がおよそ11ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、年齢によってばらつきがある。

図Ⅱ—2—2 今の日本は「基本的人権」が尊重されている社会か(性別・年齢別)

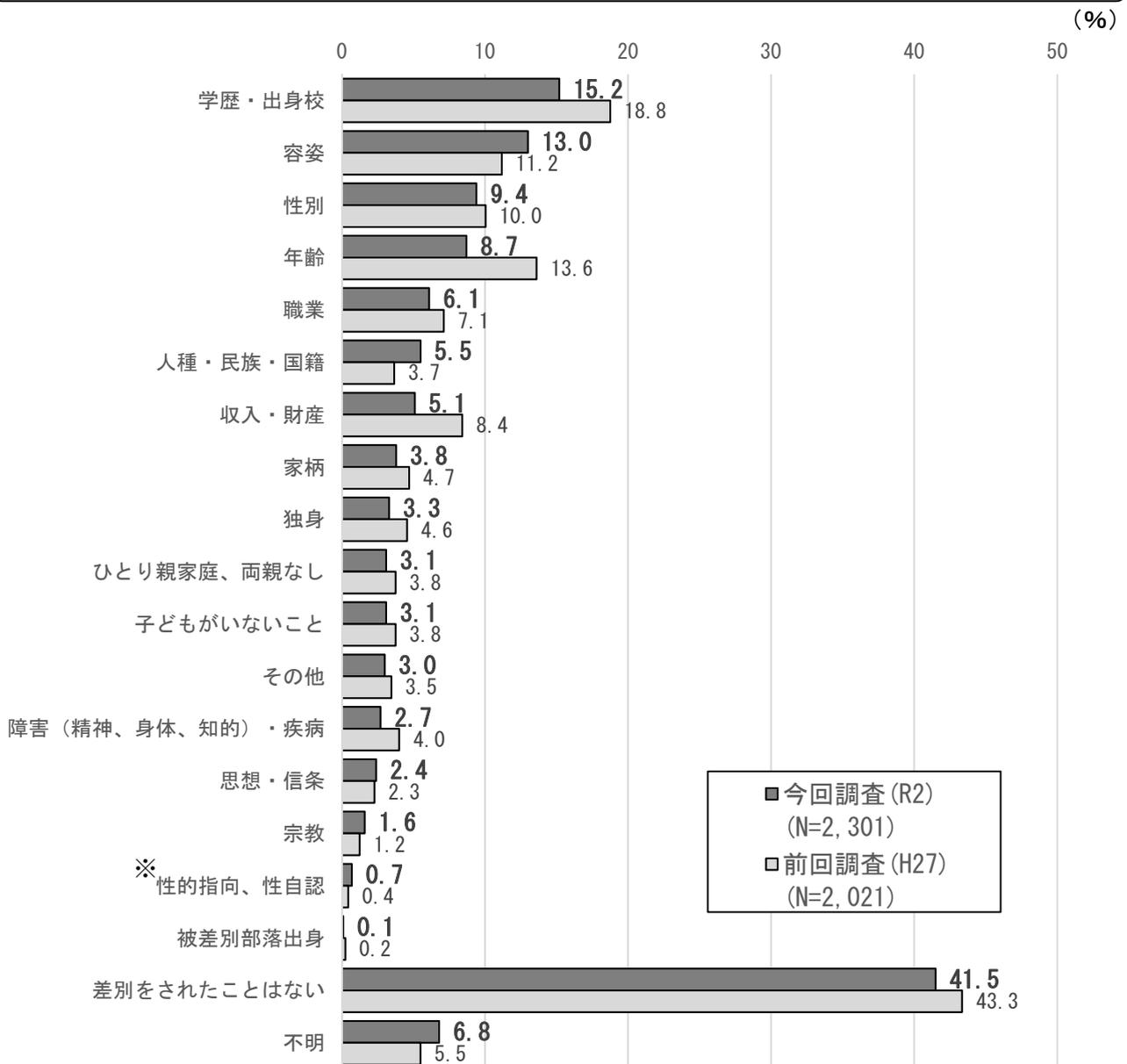


6 差別された経験【問6】

自分がこれまでに、差別をされたと思ったことがあるか、ある場合、何について差別をされたかを尋ねたところ、「差別をされたことはない」が41.5%となっている。差別されたことがある場合は、「学歴・出身校」が15.2%と最も多く、次いで「容姿」が13.0%、「性別」が9.4%と続いている。

「差別をした経験」【問5】と「差別をされた経験」【問6】を比較すると、差別された経験では上位になっている「学歴・出身校」や「性別」は、差別をした経験では下位になっている。一方で、差別をした経験では上位になっている「宗教」、「思想・信条」、「障害（精神、身体、知的）・疾病」は、差別された経験では下位になっている。また、「人種・民族・国籍」についても両設問間で回答に差があった。

図Ⅱ—6—1 差別された経験[複数回答]



※ 前回調査では「いわゆるLGBT」

設問間クロス集計 1

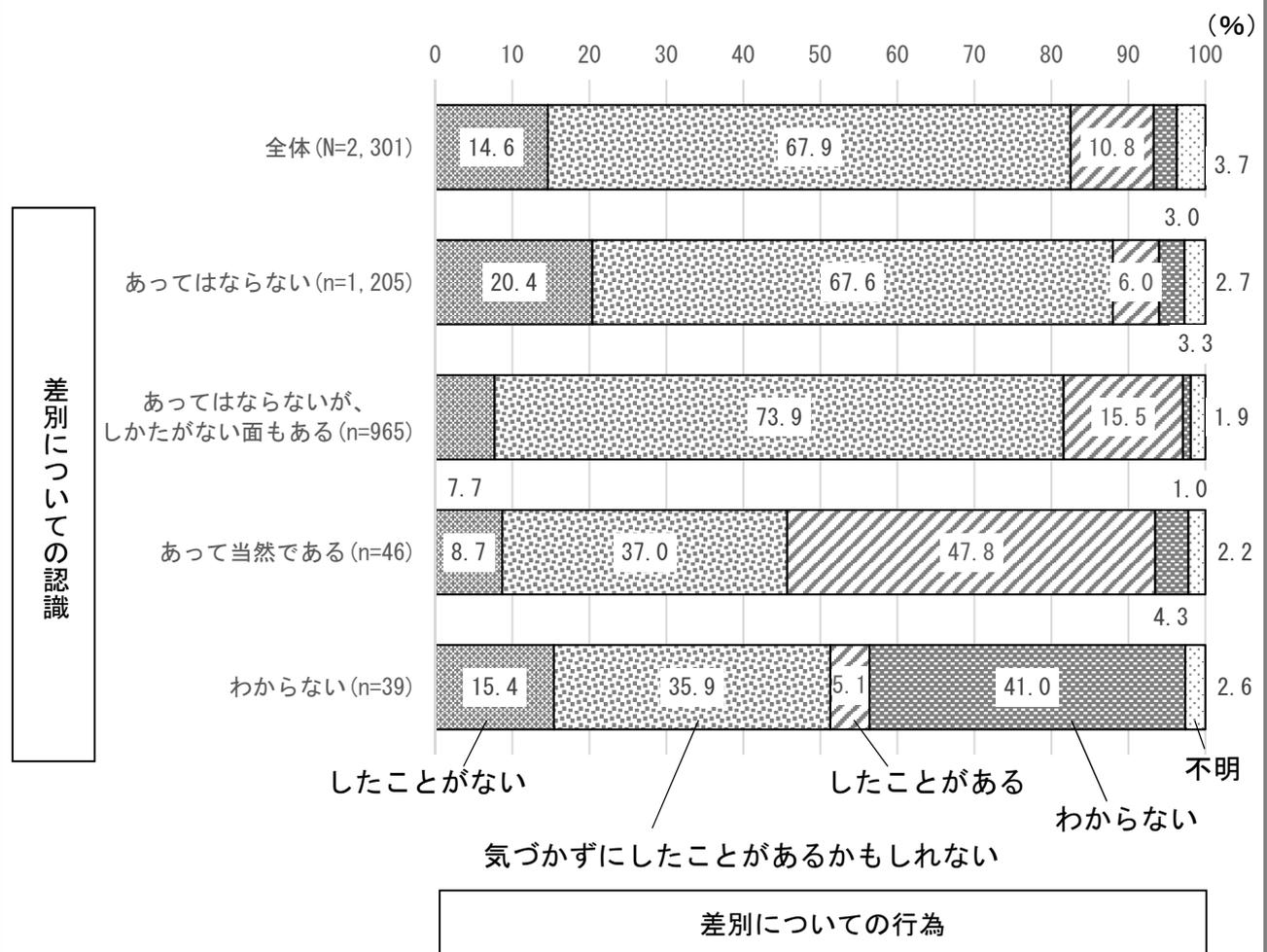
差別についての認識と、行為との関係を見るため、「差別についての行為」の設問【問4-2】の回答について、「差別についての認識」の設問【問4-1】の回答別に集計した。

差別は「あってはならない」と回答した人の中で、差別を「したことがない」と回答した人は20.4%であり、全体（14.6%）よりおよそ6ポイント高くなっている。

一方、差別は「あって当然である」と回答した人の中で、差別を「したことがある」と回答した人は47.8%と、全体（10.8%）より37ポイント高くなっている。

また、差別は「あってはならないが、しかたがない面もある」と回答した人の中で、差別を「気づかずにしたことがあるかもしれない」（73.9%）または「したことがある」（15.5%）と回答した人の合計は89.4%で、全体（67.9%+10.8%=78.7%）よりおよそ11ポイント高くなっている。

図クロス1 差別についての認識【問4-1】 × 差別についての行為【問4-2】

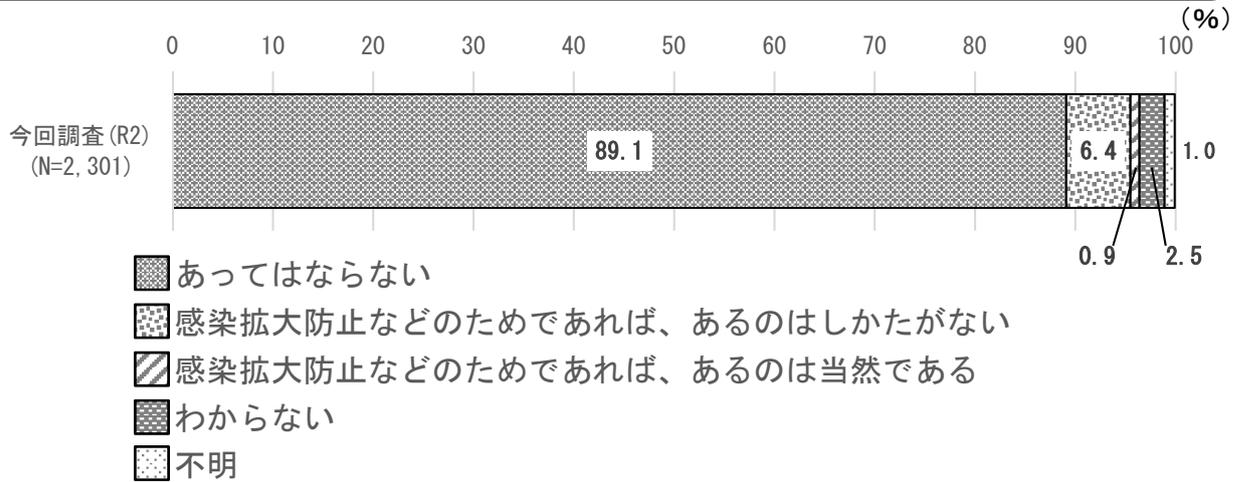


23 新型コロナウイルス感染症等の患者等について人権上問題があると思うこと【問 23】

次に、新型コロナウイルス感染症等の患者やその家族、医療従事者等に対する誹謗中傷やプライバシーの暴露といったインターネット上の差別的な書き込みなどの人権侵害に対して、自分の考えに近いもの【問 23-2】を尋ねたところ、「あってはならない」が 89.1%と最も多かった。「感染拡大防止などのためであれば、あるのはしかたがない」が 6.4%、「感染拡大防止などのためであれば、あるのは当然である」が 0.9%となっている。

◎前回調査(平成 27 年度)では設問していない

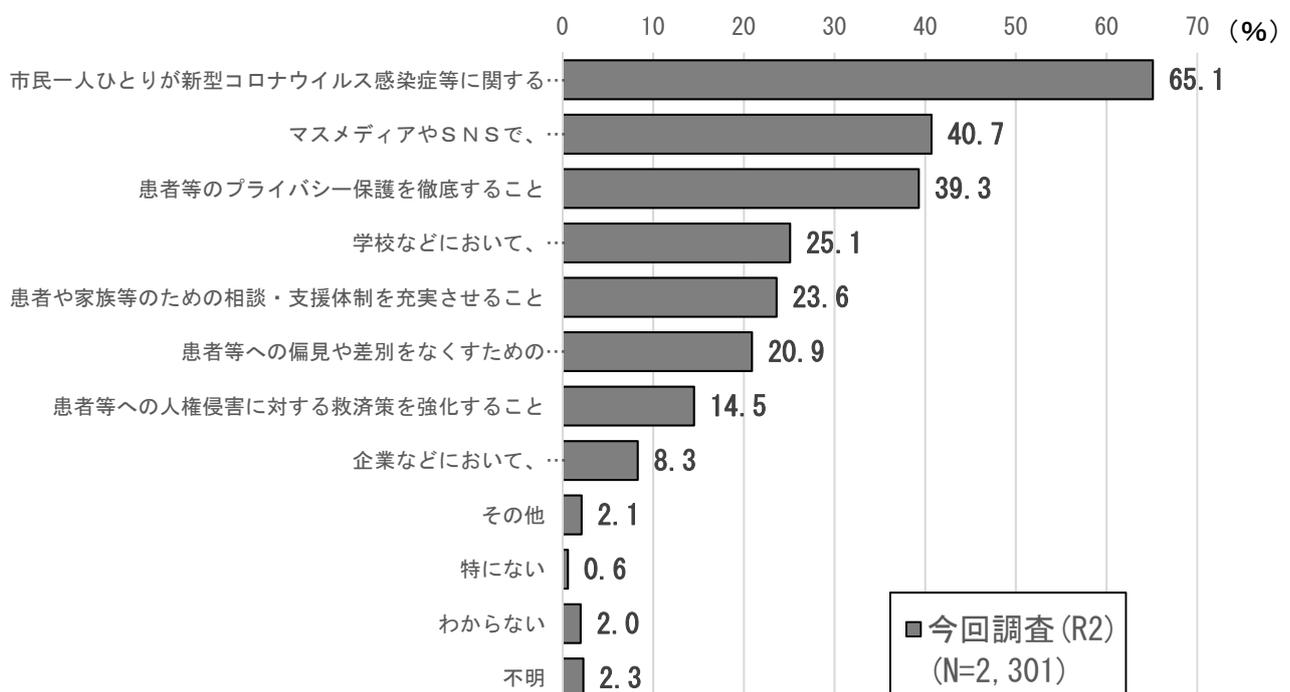
図Ⅱ—23—2 新型コロナウイルス感染症等の患者等に関する人権侵害についての認識



次に、新型コロナウイルス感染症等の患者等の人権を守るために、どのようなことが必要か【問 23-3】を尋ねたところ、「市民一人ひとりが新型コロナウイルス感染症等に関する正しい知識を身につけること」が 65.1%と最も多く、次いで「マスメディアや SNS で、不確かな情報が流れないように規制すること」が 40.7%、「患者等のプライバシー保護を徹底すること」が 39.3%と続いている。

◎前回調査(平成 27 年度)では設問していない

図Ⅱ—23—5 新型コロナウイルス感染症等の患者等の人権を守るために必要なこと〔複数回答〕

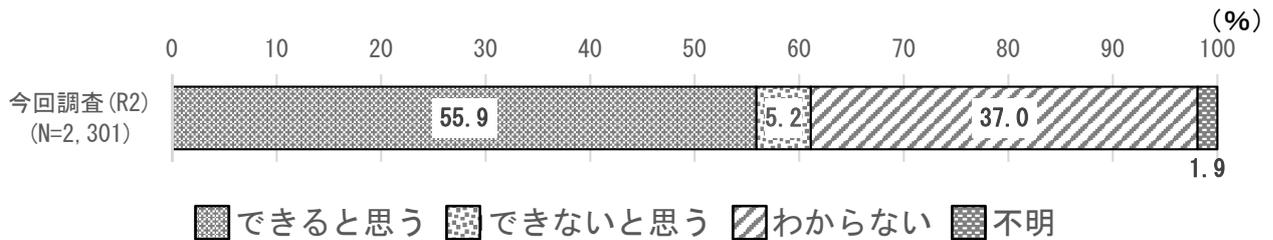


26 性的少数者について人権上問題があると思うこと【問 26】

次に、今回調査で新たに、もし家族（親・子・配偶者など）が性的少数者であることをあなたに告白した場合、その人の理解者になることができるか【問 26-2】を尋ねたところ、「できると思う」が 55.9%、「できないと思う」が 5.2%となった。「わからない」は 37.0%となった。

◎前回調査(平成 27 年度)では設問していない

図Ⅱ—26—2 家族から性的少数者であることを告白された場合、理解者になること



性別で見ると、「できると思う」は、男性より女性がおよそ 6 ポイント高い。

年齢別で見ると、年齢層が若いほど「できると思う」が多い傾向にある一方で、年齢層が高いほど「わからない」が多い傾向にある。

図Ⅱ—26—3 家族から性的少数者であることを告白された場合、理解者になること（性別・年齢別）

